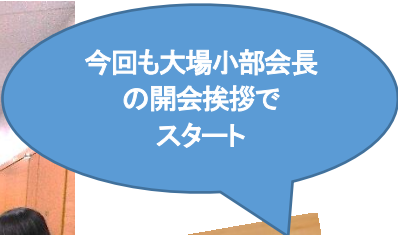


令和元年度 第2回北空知地域入退院支援研修会の開催報告

～療養が必要な住民を支援する支援者の力量アップのために～

- ・ 令和元年11月18日（月） 18：15～19：45
- ・ 深川市立病院 2階会議室
- ・ 参加者 80名（看護職30名、介護支援専門員27名、MSW・SW・相談員6名、保健師9名、リハビリ職3名、薬剤師1名、歯科医1名、事務職2名、その他1名）
- ・ 研修目的 医療関係者と地域支援関係者が連携して入退院支援を進めていく関係を築く
- ・ 研修目標 ①支援関係者が、本人や家庭の思いに添った入退院支援ができるようになる
②医療関係者と地域支援関係者が、情報を共有し同じ目標で支援ができるようになる



参加申込者は96名でしたが、悪天候？急用？といつになく欠席が多く80名の参加となりました(欠席者17名、当日受付1名)

2 事例紹介

氏名：Aさん 年齢：76歳 性別：女性

介護度：要支援2 寝たきり度：J2 認知症度：I

家族構成：息子と二人暮らし
息子（50歳）
猫 7匹
夫とは離婚。もう亡くなっている。

既往：平成30年2月 脳梗塞（麻痺ほとんどなし）
令和元年6月 不整脈

通院状況：脳神経外科に月1回定期通院
5月末に猫に足を噛まれ受診



事例提供者は深川市地域包括支援センターの上林さん

今回は、いわゆる8050問題を考える事例として紹介いただき、5年後を想像し支援を考えました

9 グループワークの視点として・・・

(1) 課題について
①家 ②金銭面 ③息子の仕事
④本人と息子の病気 ⑤飼い猫 などなど

(2) 継続支援について
①病状 ②食事 ③介護保険外のサービス
④地域の力 ⑤住居 などなど



今回も司会は原田さん、進行は初めての
高橋さん、山崎さんです



アンケートから(看護職)

- ・地域で人が生活できるように細やかな情報共有をしていきたい。
- ・他職の人たちと連携し、知恵を出し合い対象者がよい方向へ向かうよう、考えていけると思った。
- ・目の前でおきている問題にとらわれがちだが、未来を想像し、いろいろな可能性を話し合うことで、視野を広げることができると思った。
- ・ネガティブな予測だけでなく、ポジティブな面での介入を考える事が大事である。
- ・色々な方法で支援する事ができると思いました。
- ・マイナスだけでなくプラス、明るく考える視点を持つことができました。

毎回有意義に意見交換ができ、
発想も幅が広がります



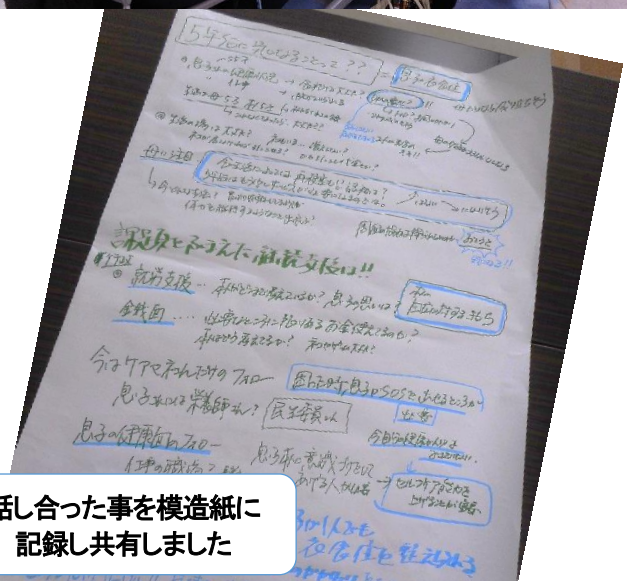
未来を想像することで、いろいろ
なことが予測できた



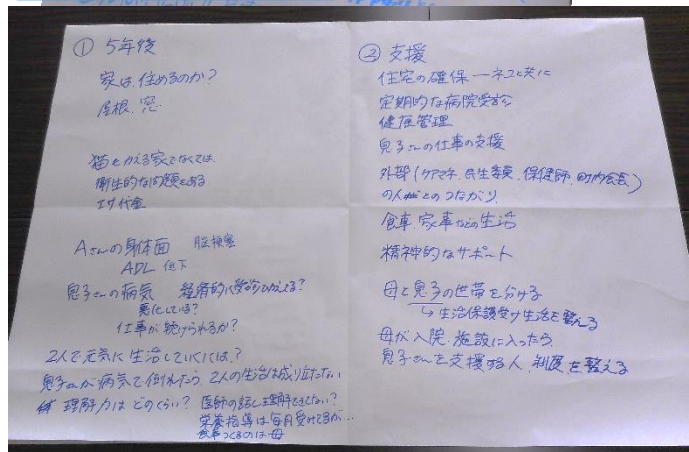
多職種の方々と話すと、いろ
いろなアイデアが生まれる



話し合った事を模造紙に
記録し共有しました



検討結果を踏まえて、新たなサービ
ス等ができればいいと思う





息子が一人になった時の見守り必要、ひきこもりカフェ、ねこカフェができないか



息子の仕事が続くよう支援と他の社会参加の場を考える

全体共有でのグループ発表から

○5年後を想像しどのような課題が予測されるか

- ・息子が仕事を継続できるのか。本人の病状悪化の可能性ある。家が古く住み続けられのか
- ・本人が亡くなったら息子はまたひきこもってしまうかも。病状の悪化、本人（脳梗塞再発、認知症など）、息子（糖尿病悪化による失明）。ネコが増えてエサ代で生活を圧迫する。
- ・息子は糖尿病が悪化すると仕事が継続困難。ネコにかまれると治癒遅く仕事困難。これまでの食事管理が悪く、それが影響している。ネコが増えて近所迷惑、大家からも撤去を強く言われる。
- ・内服、金銭管理が困難。ゲームに課金もしているのではないか。
- ・息子の仕事は継続できているか。本人は年金10万円あれば何とかできるが、困るのは息子。

○予測した課題を踏まえどのような支援が必要か

- ・ネコのもらい手を探しのサービスがあるとよい。方法としてネット、広報で。金銭管理への助言が必要。
- ・本人は施設入所することを想定し、民生委員等による訪問等で息子への見守り支援。ひきこもりカフェ、ネコカフェがあったらよい。栄養指導、ネコを里子に出す支援。市営住宅への入居。
- ・認知症カフェ利用し、健康相談、栄養指導を受ける。息子、農家の婿となり大きな家、土地に母と、ネコも同居。作った野菜も食べられる。母も家庭菜園ができ、ネコはねずみをとる、みんなにとっても良い。
- ・民生委員とのつながりが継続しているとよい。薬剤師の指導もあるとよい。家問題対策として転居（北竜町）。生活保護の相談も受けていく。
- ・動物愛護団体に相談しネコ去勢。困窮者が利用できるシェアハウスがあるとよい。発達障がい、知的障がいの相談を受け診断がつきそうであればすすめ、受けられるサービスの利用。不要な家具のあつせん、町内、地域で野菜づくり、食堂などお金を生む活動があるとよい。子どもにゲームを教えるなど能力の活用。

アンケートから（ケアマネほか職）

- ・様々な職種の方が気軽に話をすることで生まれるサービスもたくさんあるな～と思いました。
 - ・今後、高齢者のひきこもりの息子さんがいたら、今後は少し関心を持ってみようと思いました。
 - ・なかなか未来のことを考えない場合が多いと思った。いろんなことを想像して支援することが必要。継続して関われる仕組みづくりが大切
 - ・発想よく制限せずに考えることも必要と思いました。公のサービスのみがサービスではなく、地域づくりの視点で、そのケースの解決のみでなく考えることが大事。
- 多職種の方々と話すとなかなかアイデアが生まれる



金銭管理の助言支援、息子の療養指導が必要

参考資料（抜粋：詳しくはWeb検索ください）

在宅療養連携推進

よこすかエチケット集



発行 横須賀市
企画 横須賀市在宅療養連携会議

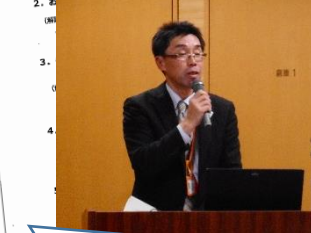
在宅療養連携推進のためのエチケット

Ⅰ. 基本的な多職種連携のエチケット

すべての職種のみならずへ

1. お互いに思いやりをもち、ていねいな対応心がけましょう
(例) 電話により応答、挨拶、感謝する挨拶、必要な情報共有をします。お互いの専門性や職種の違いを、思いやりをもって理解し、ていねいな対応心がけましょう。互いに理解を深め、お互いに協力し、お互いに成長を促すようにしましょう。お互いに成長を促すようにしましょう。

2. 専門性や役割の違いを尊重し、お互いに協力し、お互いに成長を促すようにしましょう。



最後に河野部会長から閉会挨拶。連携の心得をまとめた「よこすかエチケット集」を紹介